

令和4年度 遊び・運動大好き！運動習慣形成事業 成果報告書

山口県 令和5年3月

スポーツ庁委託事業

令和4年度「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（幼児期からの運動遊び普及事業）」

1 はじめに

スポーツ庁委託事業である「令和4年度幼児期からの運動習慣形成プロジェクト（幼児期からの運動遊び普及事業）」を受託し、子どもの運動習慣の改善や体力の向上を図ることを目的とし、保護者・保育者・小学校教員への運動遊びの重要性に関する普及・啓発及び、子どもが継続的に多様な運動遊びを経験できる機会の提供に取り組んだ。

2 事業実施の体制

(1) アドバイザーの活用

幼児、児童、幼児教育施設や小学校の教員等、保護者などを対象とした出前授業、研修会等に専門的知見や豊富な実践経験を有するアドバイザー（再委託先）を活用した。

(2) 関係課及び関係団体等との連携

実施にあたっては、幼児教育施設主管課、関係市教委等と連携しながら取組を推進した。（図1）

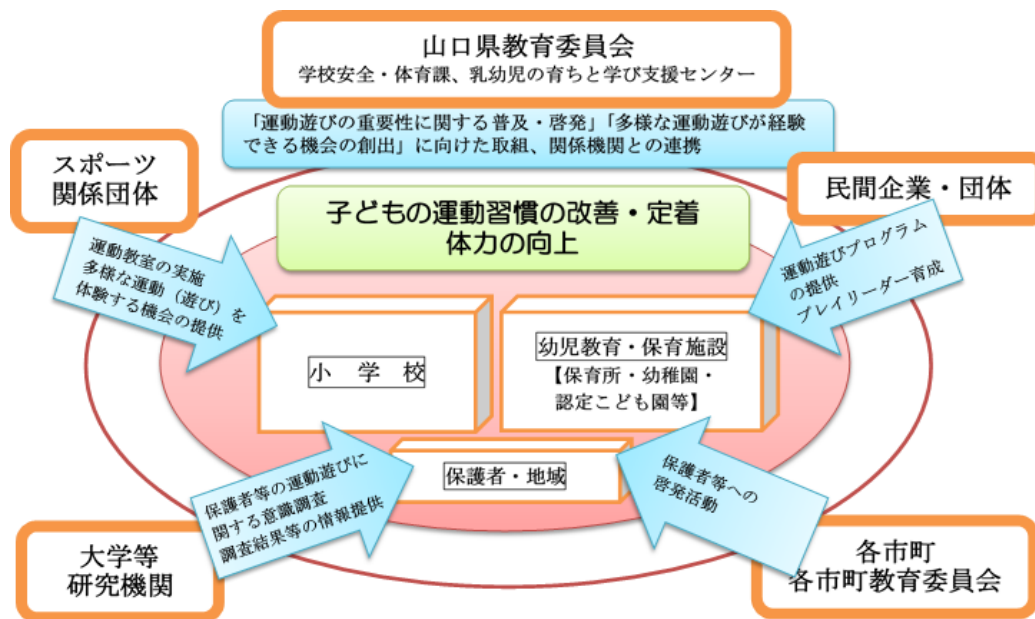


図1 研究体制

3 具体的な取組結果

(1) 運動遊びの重要性に関する普及・啓発

① 子どもの運動習慣形成に係る講演会（オンデマンド）の開催

山梨大学理事・副学長 中村 和彦 教授を講師に、「健やかな子どもを育むための運動遊び」と題して、保護者、幼児教育施設教諭、小学校教諭を対象とし、幼児期の運動遊びの重要性やプレイリーダーの役割などを学び、家庭や学校、園での実践につなげることを目的とした講演会を実施した。

講演では、子どもの体力・運動能力テストの経年推移、体力・運動能力低下の原因等のデータを活用するとともに、指導方法（技能向上型、プレイリーダー型）の違いによる子どもの身体活動量の差、運動遊びの重要性や進め方をエビデンスに基づいて解説した。

受講者からは、「子どもの運動（遊び）に関しての困り感や知りたいこと」として、次のような内容が聞かれ、プレイリーダー講習会や出前授業につなげることとした。

【受講者の声】

- ・ バランス、体幹が弱い。
- ・ 保護者と一緒に遊ぶ時間が少ない。
- ・ ルールのある遊びを行った際、思うようにいかなかったりして活動に参加できない子どもへの対応が難しい。
- ・ どうしても参加したくない（新しいことに不安を覚える）子どもへの対応
- ・ 遊び場の減少
- ・ 幼児期にたくさん外で遊んだ子とそうではない子で差を感じる。そのような子どもたちへの対応はどうすればよいか。
- ・ 自由にさせることと安全面の問題。 など

② プレイリーダー講習会の開催

多様な動きを獲得できる運動遊びプログラムについて、適度に関与しながら、幼児、児童が自発的に活動できるように促すことができるプレイリーダーの育成を図ることを目的とした講習会を実施した。

年月日	場所	内容	参加者
R 4 / 1 2 / 9 9 : 3 0 ~ 1 2 : 3 0	山口きらら博 記念公園	講義 ○幼児期における運動遊びの重要性 ○プレイリーダーの役割 演習（実技+講義） ○運動遊びプログラム体験 ○運動遊びプログラムの解説	保護者 3 名 幼児教育施設 教員 8 名
R 4 / 1 2 / 9 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 3 0	山口きらら博 記念公園	講義 ○幼児期における運動遊びの重要性 ○プレイリーダーの役割 演習（実技+講義） ○運動遊びプログラム体験 ○運動遊びプログラムの解説	小学校教員 9 名

講義では、現代の子どもが抱える課題を振り返ることからはじめ、幼少児の運動動作の発達やプレイリーダーの役割などについて学んだ。

演習では、実際に、運動遊びプログラムを体験した後、体験した運動遊びの意図やプレイリーダーとしての子どもへのアプローチ方法などを学んだ。

<プレイリーダー講習会の様子>



<プレイリーダー講習会 運動遊びプログラムの例>

	内容	備考
ウォーミングアップ	じゃんけん (右手・左手) 体じゃんけん (※) つんつんバランス	※受講者から動きを引き出しながら
移動系の運動遊び	いろいろウォーク 動物変身 五歩鬼 忍者手裏剣	
操作系・複合系の運動遊び	畳替えし (※) ボールキャッチ (いろいろな体制で) ボール当て	※うつ伏せで寝ている相手をひっくり返す

③ 子どもが継続的に多様な運動遊びを経験できる機会の提供

幼児や児童にとっては、様々な運動遊びを体験し、運動遊びの楽しさを十分に味わうことができるようにすること、保護者や幼児教育施設教員、小学校教員にとっては、プレイリードの様子を学び、家庭や園、学校での指導・支援につなげることを目的に、親子運動教室及び出前授業を実施した。

1) 親子で運動遊び教室の開催

未就学児をもつ保護者及びその子どもを対象に、運動遊びの楽しさを味わわせ、家庭での積極的な運動遊びの実践へつなげることを目的とした、親子運動遊び教室を開催した。

参加者は、プレイリーダー講習会を受講した保護者とその子ども、運動遊び教室のみに参加した保護者とその子ども、合わせて5組12名であった。

運動遊びの内容は、プレイリーダー講習会で取り上げた運動遊びを中心に構成し、自宅に持ち帰って実施できるものとし、難易度や進め方を工夫しながら行った。運動遊びの体験を軸としつつ、取り上げた運動遊びの趣旨や安全面の配慮、子どもが主体的に取り組むための声かけの仕方など、解説を行った。

<親子で運動遊び教室の様子>



2) 幼児教育施設での出前授業の実施

幼児及び幼児教育施設教諭等を対象に、出前授業を2園で開催した。幼児へ運動遊びの楽しさを味わわせ、運動遊びへより積極的に取り組んでもらうこと、また、参観者には、実際のプレイリードの様子を学び、園での実践へつなげてもらうことを目的として行った。

取り上げた運動遊びは、「忍者修行」をテーマとし、ストーリー性をもたせたり、忍者衣装を身に付けたりなど、幼児が夢中になって運動遊びに取り組むことができる仕掛けを行った。

あわせて、取り上げる運動遊びは、幼児期運動指針に沿った内容とするとともに、参観したプレイリーダーが、幼児教育施設で継続して実践できるよう、運動遊びプログラムのねらい、運営のポイントなどを学ぶ時間を設定した。

<幼児教育施設での出前授業の様子>



3) 小学校での出前授業の実施

小学生児童（1・2年生）及び小学校教員を対象とした出前授業を2校で開催した。児童へ運動遊びの楽しさを味わわせ、運動遊びへより積極的に取り組んでもらうこと、また、参観者には、実際のプレイリードの様子を学び、学校での実践へつなげてもらうことを目的として行った。

内容は、約60分のプログラムで3種目程度のスポーツを取り上げ、その楽しさ

を十分に体験できるプログラムを実施した。また、ただ単に、そのスポーツに取り組むだけでなく、そのスポーツで必要となる様々な基本的な動きが出現するようにした。また、小学校学習指導要領解説体育編に沿った内容とし、参観したプレイヤーが、継続して実践できるよう、プログラムの体験を中心としつつ、プログラムの趣旨や安全面の配慮、用具の工夫の仕方など、学ぶ時間を設定した。

<小学校での出前授業の様子>



4) 対話会の開催（オンライン）

出前授業実施後、2園2校の担当教員との対話会を行った。日頃の子どもの運動遊びに対する課題や解決案について話し合い、講習会や出前授業後の園や学校での実践をサポートするようにした。

【幼児教育施設】

<日常に見られる子どもの動作・身のこなしの課題>

- ・長時間の座位姿勢維持が難しい。（横を向く 足を上げる など）
- ・転びやすい。
- ・モノや友達とぶつかることが多いと感じる。
- ・空間認知能力が落ちていると感じる。 など

<コロナ禍による身体的・精神的変化>

- ・新しいことに進んで挑戦しようとする子が少なく感じる。
- ・外に出ていく経験が少ないので、新しいことに対しては不安を感じる子が増えたように感じる。 など

【小学校】

<日常に見られる子どもの動作・身のこなしの課題>

- ・周りをよく見ず、ぶつかることが多い。
- ・背中が曲がるなど、姿勢がよくない子どもが見られる。
- ・座っているときに足を床につけずにぶらぶらしている。 など

<コロナ禍による身体的・精神的変化>

- ・疲れた様子が見られる。
- ・あまり外に出て遊ぶことをしない子どもが見られる。

4 取組による成果

参加者の意識の変容（保護者・幼児教育施設教員・小学校教員）

【子どもの主体的な運動（遊び）を支えるために大切なこと】

事業前	事業後
・遊ぶときは、教員も本気になって遊ぶ	・「やってみたい」と思えるように、保育者が実際に遊具の使い方を伝えたり、手本を見せたりする。また、発達や年齢に合わせた内容にする
・一緒に楽しむこと。子どもがやりたいと思える環境を整えたり、準備したりしておくこと	・子どものやりたい思いや動きに気づき、親のねらいを変更したり、子どもが楽しんでいることを大切にしたりなど、臨機応変に対応する
・子どもと一緒に遊んだり、活動の場を用意したりすること	・子どもと遊ぶ中で、子どもの「やってみたい」や「もっとしたい」を引き出すような言葉かけを工夫する

【子どもが主体的に運動（遊び）に取り組むためにできること（すること）】

事業前	事業後
・短い時間でも、クラス全体での外遊びの時間を設ける	・苦手意識がある子でも「やってみたい」と思えるように、子どもたちの考えやイメージを取り入れながら活動を進める
・外や自然の中で、遊ぶ体験をさせる	・してほしいことを無理にさせるのではなく、子どもがしたいこと、楽しんでいることに目を向けていくこと。ストーリーにのせたり、なりきって楽しんでいけるような環境や工夫
・できるだけ外で一緒に遊ぶ	・今回学んだ活動や遊びを、休み時間に学級の子どもたちと取り組んでいく

5 今後の取組

(1) 幼児・小学校児童対象の運動教室、出前授業の開催

- ・子どもたちが多様な運動遊びを経験できる運動遊び教室、出前授業の実施
- ・子どもたちが休日や休み時間等で、継続して取り組むことのできる運動遊びの提供
→ 県スポーツ協会、民間企業等との連携

(2) 発育発達に応じた運動遊び講習会の開催

- ・幼児教育施設、小学校教員等関係者、保護者を対象とした、運動遊びの重要性に関する普及、啓発、子どもの運動習慣形成に係る研修会の実施
→ 県スポーツ協会、民間企業等、専門家（講師）の招聘

(3) 運動遊びイベントの開催

- ・ 保護者とその子どもを対象とし、様々な運動遊びの楽しさに触れる運動遊びイベントの開催
- 県スポーツ協会、民間企業等との連携